

「アバターともののけ姫と融合と相乗効果」の関係

みなさん、新年明けましておめでとうございます。
そして、連休工事、ご協力ありがとうございました。
安全に作業するというのと、納期、コスト、品質を守ることを対立させること無く、安全作業に自負心をもって取り組み、すべてを融合・相乗効果的に向上させていく、プロの取り組み、頭が下がります！
実はこの「融合」という言葉と「相乗効果」という言葉は、自分たちの仕事だけでなく、これからの世の中に無くてはならないキーワードという気がしています。
先日、今巷で話題の映画「アバター」を観ました。
世間では宮崎駿監督の「もののけ姫」の完全パクリだ～～！！とお怒りになられている方もいらっしゃると思いますが、これは「西洋」と「東洋」の記念すべき3D融合作品第1弾だと思います！
宮崎監督が言葉にならない感覚的な世界を「もののけ姫」で表現し、それを「タイタニック」で有名なジェームズ・キャメロン監督が、3Dの驚異的な映像とともに、シンプルに非常にロジカルに誰にでも分かりやすく表現した合体作。観客はこの相乗効果を存分に楽しめばいいのだと思います。
まだ観てない方の為に、ストーリーはこんな感じです。↓

昔々、みんなが狭いところに肩寄せあって、いつも笑いが絶えない幸せな長屋がありました。
あるとき、やり手の不動産屋がこの土地を大手スーパーに転売するといいい値で売れると思いつき、庶民に変装した地上げ屋を使って、長屋の生活を調べさせました。その地上げ屋の手先が今回の主人公なのですが、長屋に毎日通っているうちに、長屋の人たちのシンプルで丁寧な心通う生活に魅了され、そしてあまりに地上げ屋のやり方が酷いので、嫌気が差して、長屋の住人たちと一緒に地上げ屋と戦うというストーリーです。(もう観た方、いい加減なたとえでゴメンナサイ！)

で、だいたいこんなお話なんですが、この映画にも自然VS資本主義、未開VS文明、こころVSお金、私的感情VS任務、絆VSエゴなんていう対立概念が登場してきます。
「ベタな映画」と呼ばれる映画は、たいていどちらかが善でどちらかが悪となって戦います。
「ハリウッド映画」と呼ばれる映画は、たいてい善が勝利して、ヒーロー、ヒロインが抱きしめあって終わります。
しかしながらこの映画は単にベタなハリウッド映画ではないと感じました。自分が一番印象に残っているのは「ナヴィ族の神はどちらの味方もしない。二つの世界のバランスをとるだけ」というせりふです。
経済でも政治でも宗教でも、対立した状態での片側の一方的勝利は、結果的に何の解決策にもならないということが二十一世紀になって、かなりはっきりと分かってきたからではないでしょうか？
以前、社員旅行で行ったバリ島のバリダンスでは、善と悪の戦いがダンスで表現されていて、最後に善が悪を剣で刺すのですが、勝利したと思った瞬間、目覚めると自分を自分で刺していたという結末になっていて、バリ島の文化の深さに感動した覚えがあります。
多分、アバターの続編は、このあたりのところがテーマになって来るとにらんでいます。

すべて世の中に現れてくる現象は、すべての人たちが等しく内部に持っている要素で、気に入らない何かを排除したとしても必ずまた何らかの形で返ってくるものではないでしょうか？
「負の要素の中に正を見出し、正の要素の中に負を見出すこと。そしてそれをすぐにみんなで話し合って改善できるところは、即改善していく改善道場を目指す！」
アバターを観て、新年早々、こんなことをメモ帳にメモってました。
「映画の気づきと仕事を融合させて、相乗効果で2010年を乗り切ろう！ヨシ！」って感じです。
今年の社長ブログは映画でやってみます。お楽しみに！！

感謝！ 羽原篤史



P. S. アバターの続編には最初から製作スタッフとして、ハリウッドに宮崎駿監督を招へいして欲しいと思います！！
融合と相乗効果の最高のプロの仕事が存分に味わえるのではないのでしょうか。

